## リレー随筆

気象観測船に乗船して(2)

# 陽光丸と啓風丸でのウンカ洋上調査の思い出

私は昭和47年8月九州農試へ転入し,研究室の仕事は 害虫の発生予察であり、前任者の室長岸本良一氏に続い て、当然のように洋上調査に参加した。乗船したのは昭 和48年西海区水研の陽光丸と、翌49年気象庁の啓風丸 の2回であった。この頃はウンカの長距離飛来について は誰しも疑う余地はなく、また洋上調査もすっかり軌道 に乗った時期であった。それぞれの結果は九病虫研会報 20(昭49)と応動昆24(2)(昭55)に報告した。な お、昭和50年から九州農試を転出した60年までは、植 物防疫課の窓口になって調査者を探す役に廻った。

#### 1 陽光丸での調査と生活

西海区水研(長崎市)では陽光丸を運航し、東シナ海で毎年定期的に底魚資源の調査を行っていた。当時の陽光丸はわずか213トンで個室はなく、私は船の職員と雑居であった。荒天時には揺れがひどく、乗物に弱い私はとても立ってはおられず、蚕棚状の寝床に昼夜横たわり、転げ落ちないよう手摺りにしがみついている有様であった。皮肉なことに、前線や低気圧が近づき荒れ模様になると、獲物(ウンカ)が飛来するので忙しくなり、船酔いも加わりとてもしんどかった。見るに見かねてか船員の方が何回か調査を代行してくれた。

軍手を忘れて往生した。そのわけは、連日3時間おきに3個の空中ネットをロープで上げ下げすると、回数だけでも相当多くなる。しかも風の抵抗もあって力が入り、ロープとの摩擦のために手が真赤になり、やがて皮が擦りむけ痛くなった。そこでタオルを使ったが意外に不便で、軍手は調査の必需品であると痛感した。

船が走っているときにはシイラを獲るために糸を曳き、獲物が引っ掛かった合図の鈴が鳴ると停船して捕獲した。また、停船中の夜集魚灯をともし、これに集まってくるトビウオを競って網で捕まえた。これらの獲物はもちろん食卓を賑わした。食料や燃料を補給するため、復帰1年後の石垣島に寄港し2泊するおまけがついた。なお、陽光丸での調査はこの年の私が最後であった。

#### 2 啓風丸での調査と生活

洋上調査は現在まで実に 26 年続き延べ 40 回を超える 乗船回数であるが、同じ船に 2 人で乗ったケースがただ 1 回, 昭和 49 年の啓風丸であった。その 2 人とは私と伊藤清光氏(農事試(当時))で、これには次のようないき さつがあった。伊藤氏は同年 4 月新採用で農事試虫 1 研 へ入室した。室長の岸本良一氏は伊藤氏に経験を積ませるため、私と同乗させようと手続きをされたところ、伊藤氏の出張は駄目と当局にいわれた。その理由は、採用後10月までの6か月は試用期間中で、そのような身分の職員が領海外(国外)に出ることは好ましくない、ということであった。しかし、岸本氏の当局への説得が功を奏してか、ともかく2人乗務が実現した。

啓風丸は大型で揺れは少なく、そのうえ船の中央・底部の最もよい位置に個室(伊藤氏と共同)を与えられ、娯楽室で音楽や読書も楽しめて生活は満点、さらに 2人乗務で調査は大へん楽であった。しかし、乗船から 3、4日間船酔いは免れなかった。これまで何人かの乗船者に聞いたところでは、痩せ型の人が船酔いに強いようで、伊藤氏もその例外ではなかった。

### 3 輸入禁止品の輸入

周知のとおり、生きた昆虫を海外から持ち帰ることは禁止されており、持ち帰るには植物防疫所を通して輸入禁止品の輸入許可申請(研究用)を農林水産大臣に提出し、許可をもらわなければならない。この調査でウンカの採集場所は領海外(外国)であり、輸入には上記の手続きを必要とする。周知のように洋上で採集したウンカは、自由勝手に日本へ飛来侵入途中のものの一部であり、規則とはいえ手続きのたびに矛盾を感じたことである。

#### 4 洋上採集ウンカと深谷さん

昭和49年春,深谷昌次氏(東教大)から手紙をいただき、本年東シナ海でウンカを採集したら、生きたものを送ってくれとの文面であった。調査後の7月下旬早速手紙を差し上げ、そちらの飼育準備ができたらいつでもお送りする旨連絡したところ、同室の方から、氏は入院中なので連絡するまで待ってほしいとのことであった。ところが間もなく、同氏の訃報に接した。今回改めて調べてみると、9月3日に亡くなっておられる。

ウンカをどんな実験に使うかは書かれていなかったが、同氏は農技研在職中は例のウンカの越冬特殊調査のリーダーであった。この特殊調査の結論である本土越冬を再検討するため、洋上飛来のウンカと本土のものとの休眠性などの比較実験を考えておられたのではなかろうか。そうであればなぜもっと早い年次に、少なくとも洋上調査が始まった頃に実験されなかったのであろうか。惜しまれることである。 (平尾重太郎)